

# EA21 環境活動レポート

## 2022年度版

《2022年2月～2023年1月》



株式会社 石崎製作所

発行日：2023年3月25日

作成：菊田源博・野上英明



株式  
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## I 事業活動の概要

事業所名： 株式会社 石崎製作所

代表取締役： 石崎 一徳

所在地： 本社  
東京都台東区今戸1丁目5番19号  
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

環境管理責任者： 野上 英明

連絡先： TEL:03-3871-1861 FAX:03-3874-8620  
e-mail:nogami@ishizaki-ss.com

環境事務局： 菊田 源博

事業概要： 金属・樹脂を使用した建築金物関連部品、  
住宅設備関連部品、電気器具関連部品等の製造

事業規模： 資本金 1,000万円

社員数 29名

事業所数:2力所

本社  
東京都台東区今戸1丁目5番19号  
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

茨城工場  
茨城県小美玉市部室1199-12  
TEL0299-48-0273 FAX0299-48-0388

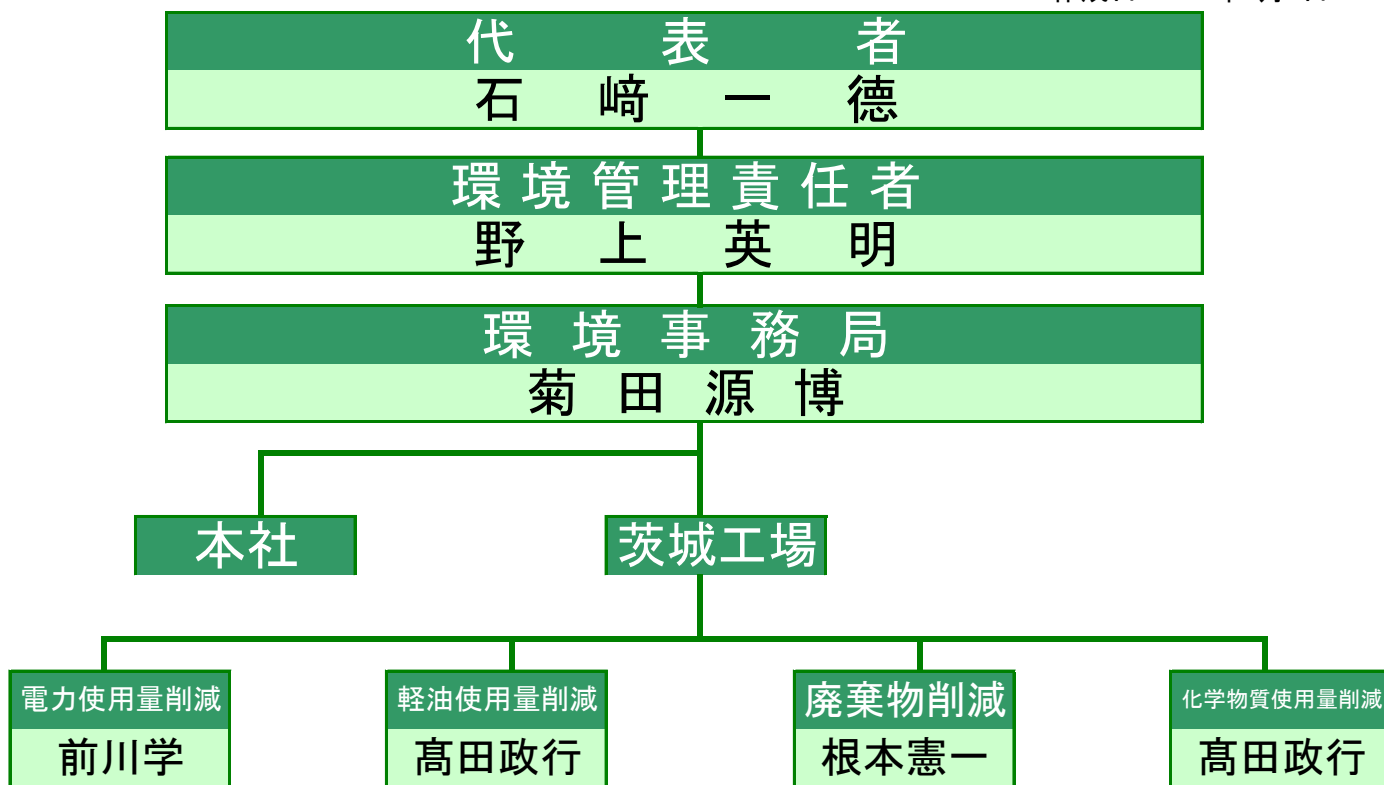
対象範囲:全組織、全事業所

認証登録日:2014年3月25日

認証登録番号:0009981

# 株式会社石崎製作所 環境経営組織図

作成日: 2022年2月1日



代表者:	基本方針の策定、見直し及び全従業員への周知 効果的な実施体制を構築する 環境管理組織の指名 代表者による全体の取り組みの評価と見直し 課題とチャンスの明確化 環境活動レポートの承認
環境管理責任者:	EA21の統括、代表者への報告。EA21環境会議実施、環境活動レポートの作成。
環境事務局:	環境管理責任者の補助。 EA21の維持、管理、データ集計。
電力使用量削減担当者:	削減の為の方法の検討。
軽油使用量削減担当者:	軽油使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。
廃棄物削減担当者:	削減の為の方法の検討。
化学物質使用削減担当者:	化学物質使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。
全従業員:	環境経営計画達成の為に必要な取り組みを実施する



## Ⅱ 環境保全方針

# 環境保全方針

### 《 基本理念 》

(株)石崎製作所は事業活動が地域及び次世代の環境に及ぼす影響を考え、環境にやさしい製品作りに重点を置き、得意先様ひいては社会に貢献することを目標とし、環境保全に努めるものとする。

### 《 基本方針 》

1.次の環境保全の重要項目に対して環境目標を設定し取組み、環境経営の継続的改善を行い必要があれば見直しを行います。

- ① 二酸化炭素排出量削減(電力、燃料消費の削減)
- ② 廃棄物の排出抑制と適正処理(一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減)
- ③ 化学物質使用量の削減
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 環境に配慮された製品の提案と製造
- ⑥ 社員の技術力向上と5S活動による社員の意識改善

2、環境関連の法規則、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

3、この環境保全方針を全従業員に周知し環境教育活動を推進します。

改訂:2019年4月5日

株式会社 石崎製作所  
代表取締役 石崎一徳



株式会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## Ⅲ 環境目標と実績

## ① 目標達成状況

※基準年は2021年2月～2022年1月

## 《 全 社 》

取り組み項目	基準年(2021年度実績)	2022年度目標	2022年度実績
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	43,352	42,919	42,841

## 《 茨城工場 》

取り組み項目	基準年(2021年度実績)	2022年度目標	2022年度実績	達成率	評価
電力消費量の削減(kWh)	71,186	71,186	70,194	101.5%	○
軽油燃費の向上(km/ℓ)	9.1	9.1	9.1	100.0%	○
一般廃棄物の削減(40ℓ袋)	-	データ収集	1,870kg	-	-
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	0	0	0	100.0%	○
水使用量削減(m <sup>3</sup> )	280	280	243	115.3%	○
環境に配慮された製 品の提案と製造	1件	1件	1件	100.0%	○
社員の技術力向上と5S活動	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)	12回/年	100.0%	○

## ② 中・長期目標

※基準年は2022年2月～2023年1月

取り組み項目	2022年度(基準年度)	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	42,841	前年度数値1%減 42,413	前年度数値の維 42,413	前年度数値の維 42,413
①電力消費量の削減(kWh) (CO2) (kg-CO2)	70,194 30,956	前年度数値の維持	前年度数値の維持	前年度数値の維持
②化石燃料使用量の削減(ℓ) (CO2) (kg-CO2)	4,795 11,885	前年度数値3%減 4652	前年度数値の維 4652	前年度数値の維 4652
水使用量の削減(m <sup>3</sup> )	243	前年度数値の維持	前年度数値の維持	前年度数値の維持
一般廃棄物の削減 (kg)	1,870kg	2022年度から1% 減	2022年度から2% 減	2022年度から3% 減
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	使用しない	管理	管理	管理
環境配慮製品の提案(件)	1件	1件	1件	1件
社員の技術力向上と5S活動	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)

※電気の排出係数は東京電力:0.441Kg-CO2/kwhでした。

※環境目標、活動計画経営環境の変化に応じて随時改定可能とする

※本社の電気、水、ガス、廃棄物処理は賃料に含まれています。



株式  
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## IV 主要な環境活動計画の内容

### ①電力使用量削減

- 現場の休憩時間・昼休みの消灯をする。
- 空調設備のフィルターを定期的に清掃する。
- 空調設備の過剰使用をさけ、適切な温度を保つ。
- 水銀灯の使用を出来るだけ控える。
- 作業を離れる際は電気設備のON・OFFをこまめに行う。

### ②ガソリン・軽油使用量の削減

- 燃料給油・走行距離数のチェック表を作成・記入する
- 急発進急加速の禁止を励行する
- オイル交換等、定期的な車両の整備を行う
- 効率的な配送ルートを実施する。
- エコ運転を心掛ける。

### ③一般廃棄物の削減

- ミスプリント等の裏面利用
- 家庭ごみを持ち帰る
- 弁当推奨活動

### ④水使用量の削減

- 手洗い・食器等を洗う時に水を流したままにしない。
- ポスター等で節水を呼び掛ける
- 蛇口を最後まで締める

### ⑤化学物質不使用の継続

- プレスオイルの変更(揮発性の高いオイルへの変更)
- トリクレンの不使用を継続する

### ⑥環境配慮製品の提案

- クロムフリー材の購入量を増やす。
- クロムフリー材への代替を交渉する。





## V 環境活動の取組結果の評価・次年度取組内容

- ① 電気の使用量については昨年度より1.4%削減する事が出来ました。  
冷暖房をつけない季節の節電を徹底し、夏冬に向けて無理なく過ごすよう  
昨年同様に指示していきます。

次年度は現在の取り組みを継続するが売上UP率以上に増加しないようにします。

- ② 一般廃棄物は近隣集積場から『クリーンセンターみらい』へ持ち込み処理するよう  
なってから1年が経ち、結果は1,870kgと年間データを収集することが出来ました。

1,870kgが適切かどうかは判断できませんがごみ排出量を少しでも削減できるように  
弁当持参の推進や家庭ごみの持ち帰りを推奨していきます。

- ③ 化学物質は継続して不使用を管理できました。  
次年度も引き続き不使用を継続します。

- ④ 水使用量については基準年から13.3%の削減が出来ました。  
夏に打ち水を実施したため、7月からの水使用量が多くなってしまいましたが  
上手に節水できたのもよかったですと思います。  
また、昨年度は水道管の破損から大量の水を使用してしまいましたが  
修理も無事に完了したので使用量の削減につながったのではないかと感じます。  
次年度は本年度の水使用量維持を目標に計画を立てていきます。

- ⑤ 本年度もクロムフリー材の提案ができ、目標を達成することが出来ました。  
7月は5案件提案して3案件も採用になりました。しかし8月、10月の様に  
営業スポット案件自体が無かったので提案できない月もありました。  
営業スポット案件を増加させないと環境配慮品の提案もできませんので  
『顧客の新規開拓をしてみても』と指示しました。  
次年度も継続してスポット案件、新規案件での材質提案をしていきます。

- ⑥ 5S活動も定着化して全社員の意識が変わってきました。  
しかし、アクリルパネルの在庫が増加して倉庫を圧迫してきていて、  
倉庫内の5Sがしっかりと出来ていないのが目につきます。  
次年度にもう一度整理するように指示しました。

社員中心に活動してきた安全衛生活動のチームも1年が経ち地盤が  
出来てきましたので次年度は次世代リーダーを育成するための  
取り組みをしていきます。



## VI 環境関連法等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ◎茨城県生活環境の保全に関する条例
- ◎騒音規制法
- ◎振動規制法
- ◎小美玉市廃棄物の減量及び処理に関する条例
- ◎フロン排出抑制法

①適用される主な環境関連法等の遵守状況の確認及び評価  
環境管理責任者により問題ないことを確認した。

### ②違反・訴訟等

2022年度において環境関連の違反、訴訟等は過去3年間ありません  
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去ありません。

## VII 代表者による全体評価と見直しの結果

2022年度は環境活動計画の『電力量の削減』、『燃費向上』、『環境配慮製品』、『化学物質使用量削減』、『一般ごみの削減』、『水道使用量の削減』、『ダンボールのリサイクル化』の計7項目のうち『電力量の削減』、『燃費向上』、『環境配慮製品』、『化学物質使用量削減』、『水道使用量の削減』、『ダンボールのリサイクル化』の6項目が目標達成となりました。

全体的にコロナの影響が弱まり始め飛沫感染防止関連製品の特需売上が減少したことと通常製品の売上減から昨年比で売上が減少したとにより電力使用量が減少したと思われま。電力使用量については前年維持で計画していますが売上が増加した場合、増加率以上に増加しない様に取り組みを継続していきます。

自動車燃料は燃費率を継続させるように取り組んできましたが昨年同様9.1km/ℓと目標にしていた前年維持で着地しました。取り組みの効果が出ています。コロナの影響が少しずつ緩和され営業に出る機会も増えてくると思います。維持していけるように取り組んでいきます。環境配慮製品の提案は量産製品に対して少しずつですが切り替えが進んでいます。営業スポット品についてはお客様からのご依頼が無い限り提案できませんので次年度は新規開拓も視野に入れて受注量増加に向けて取り組みます。

化学物質使用量の削減については不使用を継続できています。

一般廃棄物は昨年度から指定処理場が変更になりましたのでデータ集計が完了しました。こちらを基準として一般廃棄物の排出も少しずつ削減できるように取り組みます。

産業廃棄物の処理については本年度はゼロでした。水使用量については昨年から13.3%減少することが出来ました。全従業員のこまめな節水が身を結んだと思います。

全員参加の活動として『5S活動』『安全衛生活動』を継続しています。

社員各自が責任を持って行動する習慣ができてきたのが仕事上にも影響してきていると思いますので引き続き推進し、従業員の意識を更に高めみんなで安全に作業が出来る環境を作っていきます。

以上